

# 第69回接続料の算定等に関する研究会

## 事業者ヒアリング 説明資料

-ビル&キープについて-

2023年3月7日

## はじめに

- ・ビル&キープは接続料の低廉化に伴い、いずれ浸透する精算方式の一つになりうると考えられる。
- ・ビル&キープが標準的な精算方法となった場合、設備投資や事業継続に与えるインパクトは大きいと思われる。
- ・ビル&キープの考え方自体は否定するものでないものの、導入されるタイミングについては検討が必要。

### ①ビル&キープの導入(浸透するタイミング)について

現在、NTT東西様の接続料は市場価格として広く浸透している認識。ビル&キープの考え方自体を否定するものではないものの、指定電気通信事業者様が接続料の選択肢としてビル&キープを取り入れることが可能となれば、当該精算方式を適用される事業者数の推移にもよるが、この精算方式が事業者間の標準的な精算方式となり得る可能性があり、設備維持や音声通話料等、各事業者の収支面に影響がでる可能性があるかと推察します。

2025年までのいわゆる移行期の長期増分費用にかかる接続料原価の範囲はPSTN-LRICとIP-LRICの加重平均が採用されているが、IP網移行後の2025年以降はIP-LRICのみが接続料原価の範囲となり、接続料の低廉化は進んでくると考えられる。

接続料の推移次第ではあるが、いずれビル&キープの考え方は接続料の取り決めや料金精算等に要するコストより効率的と判断されるタイミングが来ると考えられ、時期は分かりかねるが自然にどこかのタイミングでビル&キープの考え方は浸透してくるものと推察します。

### ②かけ放題等の通話料定額制サービスについて

携帯電話市場では、かけ放題等の通話料定額制サービスは利用者に広く認知されており、ビル&キープが主流となった後は固定電話事業者内にもかけ放題等の通話料定額制を軸とする新しいサービスが浸透してくることが予見される。

通話料定額制による収入はトラフィック見合いではなく契約者数に比例することから、これまでの従量課金による通話料収入とは異なり、収益構造に与えるインパクトも大きいと推察する。

### ③ビル&キープの影響について

ビル&キープの影響は単なる接続料の非精算化だけではなく、かけ放題等の通話料定額制の浸透次第ではあるが、電話事業者の主な収入源のひとつである通話料収入にも影響を及ぼす可能性があると思われ、設備維持や事業継続に必要な収入面において特に小規模事業者への影響は大きいのではないかと推察する。

各社はこれまで従量で得ていた接続料や通話料収入に代わる新たな機能等の拡充や設備の効率化などが更に求められるという認識。しかしながら、機能の拡充や設備の効率化が上手く進まなかった場合は、事業撤退等も起こりうると思われる。結果、利用者によるサービス選択肢の縮小や事業者減少により競争や設備効率等のインセンティブを損なう可能性も有していると推察する。

ビル&キープの考え方はいずれ浸透していくことが予想されることからビル&キープの考え自体を否定するものではないが、例えばIP網への移行が完了する2025年以降など、比較的早い段階でビル&キープを浸透させる理由もないように思う。また、事業者間協議において事業規模の大小が影響し、ビル&キープが一方向的に強要されることが起きないように配慮されることも必要と思われる。ビル&キープ導入の是非やビル&キープを導入されるタイミングについては広く意見を求め、公平な市場競争が整う様にご配慮頂きたい。

### ④接続料水準と接続料協議について

現状、多くの事業者がPSTN-LRIC等の市場価格ないし対向事業者とミラーで接続料を設定しているなかで、特に大きなトラブルは発生していないと認識。接続料協議で課題が生じているのは限られた事業者間であると推察しており、当該事業者は、例えば前年対比の実績トラヒックの増減等の情報を基に、まずは2社間で協議を重ね解決することが望ましいと考える。

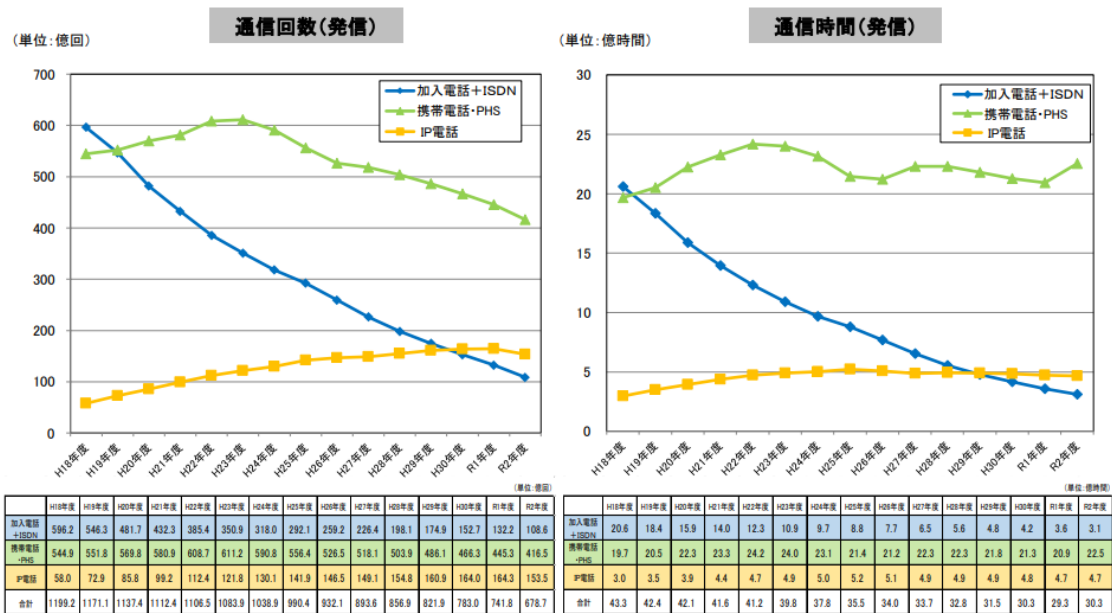
全社共通で接続料の透明化（接続料規制）を図るのであれば、小規模事業者に過度な負担がかからないように調整頂くことが前提と考えております。

## 着信接続料とダイヤル通話料金の推移について

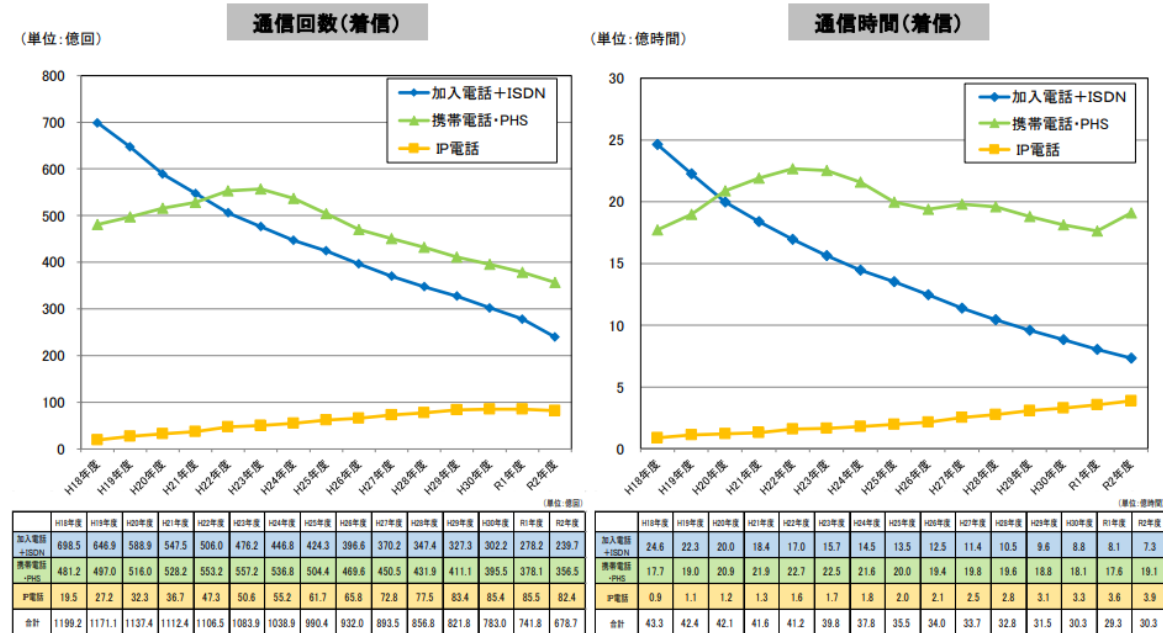
# 音声通信量の推移 (発信) (着信)

固定/携帯の区分に関わらず、トラヒックは減少傾向にある。

## 音声通信量(発信)の推移



## 音声通信量(着信)の推移

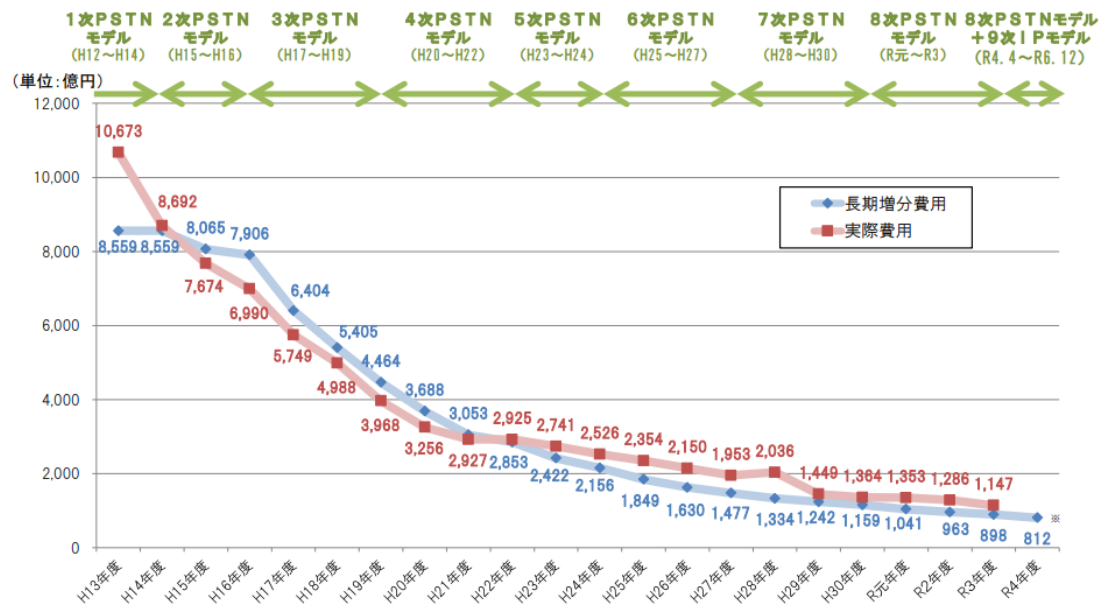


※抜粋資料  
「通信量からみた我が国の音声通信利用状況」(総務省)

# 接続料原価と接続料の推移

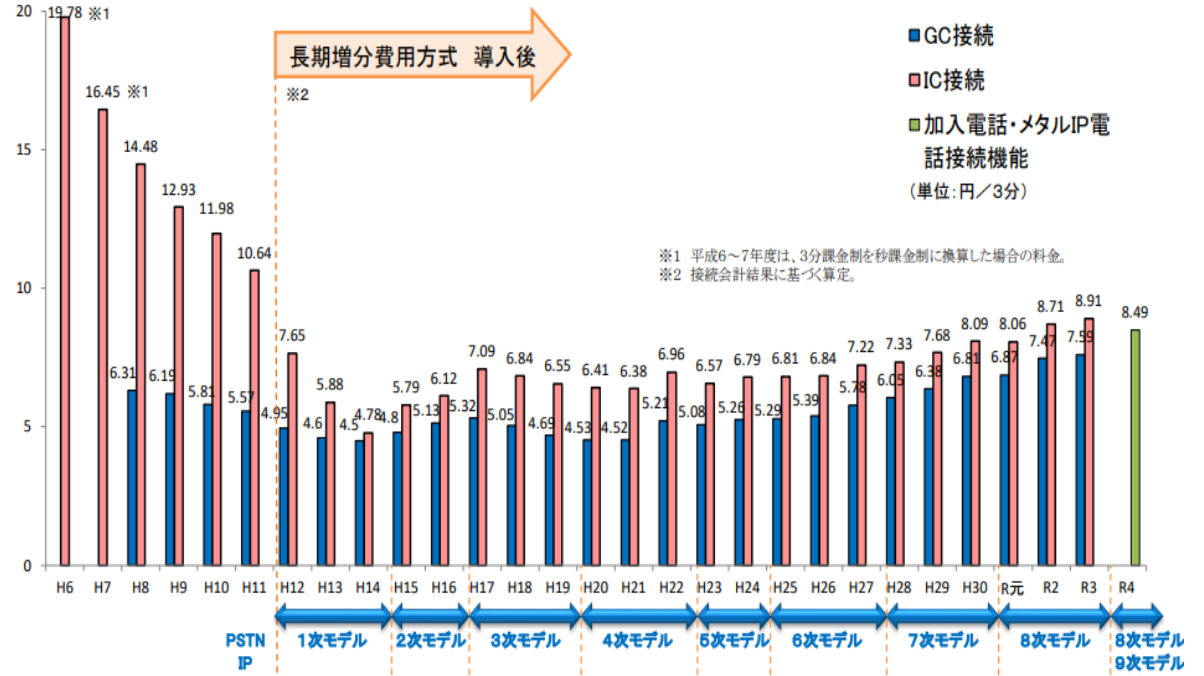
PSTN-LRICの接続料原価は減少傾向にあるが、接続料は通話トラフィックの減少に伴い増加傾向にある。

### 長期増分費用と実際費用の推移(接続料原価)



(注)接続料原価は、NTSコスト付け替え後の額。  
 (注)実際費用は、当該年度の需要(実績)に対する費用(信号網コスト及び中継伝送専用機能コストを除く)。  
 (注)LRIC費用は、前年度下期+当該年度上期の需要に対する費用。  
 ※ PSTNモデルによる値。  
 IPモデルの場合は522億円。

### 長期増分費用方式に基づく接続料の推移



※1 平成6～7年度は、3分課金制を秒課金制に換算した場合の料金。  
 ※2 接続会計結果に基づく算定。

※抜粋資料  
 長期増分費用モデル研究会  
 ~IP網への移行完了を見据えた接続制度の整備に向けて~  
 令和4年11月



# ダイヤル通話料の推移（NTT東西様加入電話）

2001年以降、区域内通話にかかる通話料は変わっていないのではないか。

※抜粋資料  
NTT西日本 ダイヤル通話料の推移  
<https://www.ntt-west.co.jp/info/databook/pdf/075.pdf>

| 区分         | 距離区分     | 区域内      | 隣接区域内 | 区域外通話        |             |       |       |       |        |        |        |        |        |        |        | 遠近格差 | 距離段階                    | 改定の概要   | 概要 |
|------------|----------|----------|-------|--------------|-------------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|-------------------------|---|----|
|            |          |          |       | ～20km        | ～30km       | ～40km | ～60km | ～80km | ～100km | ～120km | ～160km | ～240km | ～320km | ～500km | ～750km |      |                         |   |    |
| 県内通話（再編成後） | 2000年10月 | 平日       | 昼間    | 180秒<br>10円  | 90秒         | 90秒   | 60秒   |       | 45秒    |        |        |        |        |        | 1:4    | 5    | ・市外通話料金の値下げ<br>・距離区分の統合 | 距離区分の統合（～30km・～100km区分の廃止）及び夜間割引の拡大（平均約40%の値下げ） |    |
|            |          |          | 夜間    |              | 90秒         | 75    |       | 60    |        |        |        |        |        | 1:3    |        |      |                         |   |    |
|            |          |          | 深夜・早朝 | 240秒         | 120         | 120   | 90    |       | 90     |        |        |        |        |        | 1:2    |      |                         |   |    |
|            |          | 土曜・日曜・休日 | 昼間    | 180秒<br>10円  | 90          | 90    | 75    |       | 60     |        |        |        |        |        | 1:3    |      |                         |   |    |
|            |          |          | 夜間    |              | 90          | 90    |       | 90    |        |        |        |        |        | 1:2    |        |      |                         |   |    |
|            |          |          | 深夜・早朝 | 240秒         |             | 90    | 90    |       | 90     |        |        |        |        |        | 1:2    |      |                         |   |    |
|            | 2001年5月  | 平日       | 昼間    | 180秒<br>8.5円 | 90秒<br>10円  | 90    | 60    |       | 45     |        |        |        |        |        | 1:4.7  | 5    | ・市内通話料金の値下げ             | 区域内通話の単位料金の値下げ（10円→8.5円）                        |    |
|            |          |          | 夜間    |              | 10円         | 90    | 75    |       | 60     |        |        |        |        |        | 1:3.5  |      |                         |   |    |
|            |          |          | 深夜・早朝 | 240秒<br>8.5円 | 120秒<br>10円 | 120   | 90    |       | 90     |        |        |        |        |        | 1:2.4  |      |                         |   |    |
|            |          | 土曜・日曜・休日 | 昼間    | 180秒<br>8.5円 | 90秒<br>10円  | 90    | 75    |       | 60     |        |        |        |        |        | 1:3.5  |      |                         |   |    |
|            |          |          | 夜間    |              | 10円         | 90    | 90    |       | 90     |        |        |        |        |        | 1:2.4  |      |                         |   |    |
|            |          |          | 深夜・早朝 | 240秒<br>8.5円 | 120秒<br>10円 | 120   | 90    |       | 90     |        |        |        |        |        | 1:2.4  |      |                         |   |    |

税抜表示  
180秒 8.5円

※金額は税抜

2023年2月現在

※抜粋資料  
<https://www.ntt-west.co.jp/info/databook/pdf/076.pdf>

| 区分   | ダイヤル通話の課金秒数                            |                                |                |
|------|--|--------------------------------|----------------|
|      | 【11円(税込) [区域内については9.35円(税込)] でかけられる秒数】 |                                |                |
| 時間帯  | 昼間                                     | 夜間                             | 深夜・早朝          |
| 距離段階 | 午前8時～午後7時                              | 午後7時～午後11時<br>(土曜・日曜・祝日の昼間を含む) | 午後11時～午前8時     |
| 区域内  | 3分 (9.35円)(税込)                         |                                | 4分 (9.35円)(税込) |

税抜表示  
180秒 8.5円

接続料原価や接続料の推移が通話料に及ぼす影響は限られているのではないか。



ビル&キープが浸透した場合、対向事業者様の接続料は気にしなくともよくなることから、通話料の低廉化や通話料定額制が浸透するきっかけになり得ると思われる。

---

## トラヒックポンピング対策としてのビル&キープと通話料定額制の浸透について



## トラフィックポンピング対策としてのビル&キープと通話料定額制の浸透について

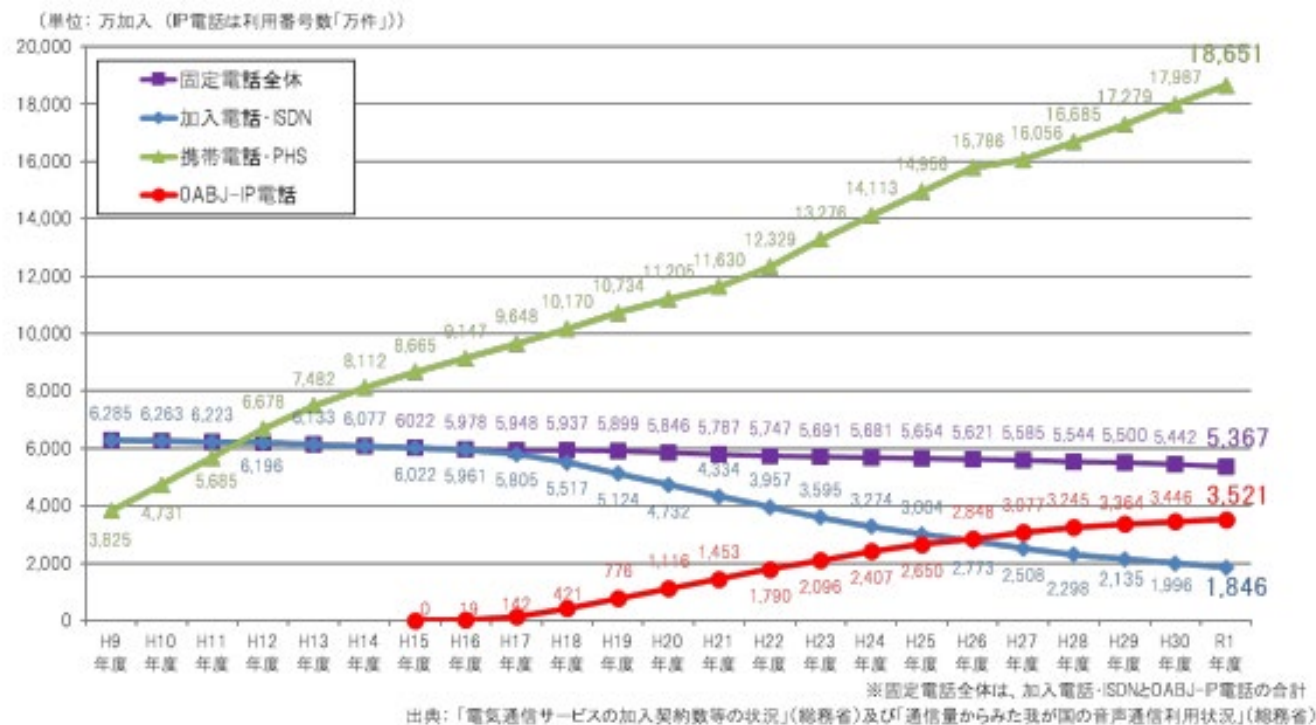


## 音声通信サービスの契約数等の推移と番号指定事業者の主な収益について

# 音声通信サービスの契約数等の推移

固定電話の契約数は平成9年以降ほぼ横ばい ⇒ 固定電話市場は限られた市場

(図表5 音声通信サービスの契約数等の推移)



※抜粋資料  
 IP網への移行の段階を踏まえた接続制度の在り方  
 ~IP網への移行完了を見据えた接続制度の整備に向けて~  
 最終答申

# 番号指定事業者の主な収益（内訳）

## ①現在

## ②ビル&キープ導入 + かけ放題（通話料定額制プラン）

※ビル&キープ導入後はかけ放題プラン等の通話料定額制が主流となり、当該料金も価格競争に陥る可能性があるのではないか。ビル&キープは接続料の非精算に留まらず通話料収入等、他の収益にも影響を及ぼし、事業継続や設備投資に影響を及ぼす可能性があるのではないか。

設備投資/設備維持等に必要な原資

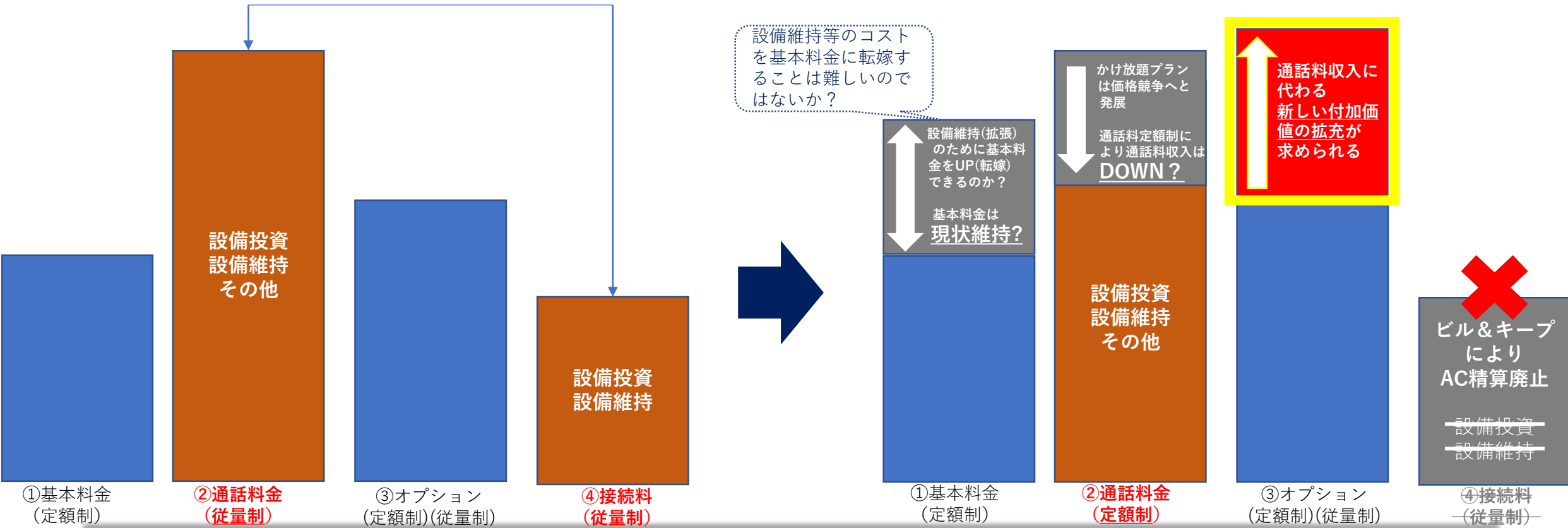
設備維持等のコストを基本料金に転嫁することは難しいのではないかと

設備維持(拡張)のために基本料金をUP(転嫁)できるのか？  
基本料金は現状維持？

かけ放題プランは価格競争へと発展  
通話料定額制により通話料収入はDOWN？

通話料収入に代わる新しい付加価値の拡充が求められる

**×**  
ビル&キープによりAC精算廃止  
—設備投資—  
—設備維持—



## ビル&キープ方式導入に対する考え（まとめ①）

- ①一般呼において着信側利用者に通話料の支払いを求める着信通話料の考え方は利用者に受け入れられないのではないか。
- ②ビル&キープ導入後も設備の投資や維持は求められる。設備投資や維持にかかるコストを基本料金等に転嫁できるとは限らないのではないか。
- ③事業規模並びにトラフィック規模の大小があるなかでビル&キープが双方合意のもと取り入れられるケースは稀ではないか。
- ④ビル&キープ方式を用いた場合、自社の料金設定の範囲が自網コストのみとなる。自社の設備規模に見合った料金設定がコントロールできるようになる点は評価できる。

- ⑥通話料定額制の収益は契約者数に左右されることとなり、規模の大きい事業者様の優位性が高いのではないか（通話料の従量課金は事業規模やサービスエリアが小さくとも自社が持つトラフィック次第で規模の大きい事業者様とそれなりのな市場競争ができています認識）。

## ビル&キープ方式導入に対する考え（まとめ②）

- ⑦従量制の通話料収入に代わる高い付加価値を拡充することは容易なことではないと思われる（開発の為の時間+開発コストが必要）。
- ⑧利用者や資本の大きい大規模事業者しか市場に残れなくなるのではないか。電話サービスが大手事業者に寡占され、市場競争原理が働かなくなり、消費者が不利益を被る可能性があるのではないか。
- ⑨事業者数が少なくなってしまった場合、それはサービスの選択という面において消費者の選択肢を奪うこと（利用者利便の損失）に繋がらないか。



ビル&キープの考え方は否定するものではないものの、比較的早い段階でビル&キープを浸透させる理由もないように思う。また、事業者間協議において事業規模の大小が影響し、ビル&キープが一方向的に強要されることが起きないように配慮されることも必要と思う。導入の是非や導入するタイミング、ビル&キープが浸透することで起こり得る影響については関係事業者へ広く意見を聴取すべきではないかと考えます。なお、二社間の建設的な協議のうえで合意が得られるのであれば、ビル&キープを取り入れることや導入時期について何ら影響を受けるものではないと考えます。